

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和6年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2024-3	観測データとシミュレーションの融合による自動車 OD 交通量パターン再現技術に関する研究開発	早稲田大学 教授 佐々木 邦明	B
<p><研究の概要></p> <p>本研究の目的は、ETC2.0や携帯電話基地局情報、GPSに基づく移動体情報などを移動・活動シミュレーション上で統合的に扱い、道路の動的なOD交通量推計やその近未来予測、さらには道路利用の転換効果についての定量的検討を可能とするプラットフォームを開発することである。そのために、データ同化可能な交通流シミュレータの開発、携帯電話ベースのOD推計、センサスODの動的補正等に具体的に取り組む。</p> <p><中間評価結果></p> <ul style="list-style-type: none">研究目的、研究体制およびこれまでの進捗状況を踏まえると、本研究は現行計画どおり継続することが妥当である。引き続き、各研究項目の成果を積み上げながら、全体としての研究の完成度を高めていくことが期待される。研究成果がどのようなニーズに対応し、また道路政策にどう活用していくかを明確にして研究を進めていただきたい。 <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none">最終年度に向けて、交通シミュレータの改善、OD 推計手法、動的補正手法等の各要素技術について、研究全体の枠組みの中での位置づけを整理しつつ、成果を体系的にとりまとめていくことが望まれる。最終とりまとめ時には、シミュレータのインプットデータに何が必要か、補正が必要な場面や結果として何が得られるのか、アウトプットデータの妥当性などをよく検証・整理いただき、道路管理者が現場で容易に使えるようにまとめていただきたい。カメラ技術の向上により、自動車交通量を観測するカメラ(CCTV 等)で自動車、自転車、徒歩等の精度も向上してきているところ、本研究のモデルを使う優位性も含めて整理いただきたい。使用した「観測データ」がどのように観測されたかの詳細や、低忠実度・高忠実度共に、シミュレーションで補正されたODが、実際のODと比較してどの程度一致しているのかの記載も盛り込んでいただきたい。最終年度研究において、本研究成果が全国的にそのまま適用可能なのか、あるいは、一部地域においては何らかの補正・チューニングが必要なのか等、検証して頂き、研究成果をとりまとめて頂きたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第56回新道路技術会議において審議したものである。